



2学期 定期学校訪問シリーズ② 渡町台小

各教科等での思考ツール等を活用した授業実践

渡町台小学校では、各教室や図書室に10セット程度の思考ツールボード等を常備し、いつでも思考ツールを活用した授業に取り組めるようにしています。実際に訪問の際に授業で活用していたり、活用後のボードが展示してあったり、日常的に活用している様子が伺えました。自分の考えを整理・分析したり、他者と比較したり、様々な考えを分類したりすることで、考えを付加・修正することができます。これらのプロセスを通して、ようやく思考力・判断力・表現力を高めていくことができます。各単元等で、思考ツールを活用しながら思考力等の育成や学びに向かう力の工夫と改善を進めていくことが重要です。

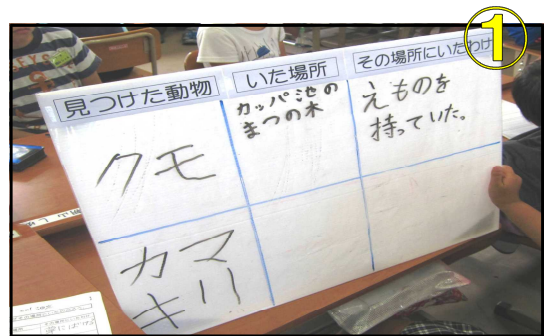
渡町台小の取組

① 思考ツールボード活用

視点に沿ってお互いの考えを交流しています。班で交流する際には、この視点に沿って考えを発表させていました。

全体で考えを出し合う際には、「分かったこと」「大切なこと」を教師が、言葉で示すことが大切です。

児童の言葉を、学習した用語を用いて価値付けたり意味付けたりすることで、児童の学びを無自覚なものから自覚されたものへと高めていくことが大切です。



② 学校図書館の活用

全職員が、学校図書館を活用した授業実践を行うように取組を進めています。単元を貫く言語活動における並行読書を始めとして、各教科及び生活科・総合的な学習の時間等に、一人一人の児童が学校図書館を活用して調べ学習に取り組めるよう、2つの部屋に分けて環境整備をしています。



③ 「今後の学力向上に関する取組の徹底」

学年児童の実態に応じて、学年及び学期毎に取組の焦点化を図り、基礎的・基本的な学習の定着を図っています。

芯の通った学校組織活用推進のために

渡町台小学校では、思考ツールの活用を「重点目標4点セット」や「授業改善5点セット」に掲げています。その他の学校でもよく見かけます。

その場合注意したいのは、「取組指標」が研究授業や互見授業の回数だけに留まらず、確実に目標達成できるようにすることです。

「取組指標」は、思考ツールの活用方法や頻度等、「重点的取組」や「取組内容」に則して、「誰が、何を、どれくらい」行うのかを分かりやすく設定することが重要です。例えば、「各小単元で必ず1回以上使用する」、「毎時間ペア・グループ学習や思考ツールを活用して話し合いを行う」などが考えられます。研究授業や互見授業の回数、あるいは授業評価アンケートの回数等は、それらを検証するものとして、5点セットの「検証指標」に位置付けるとよいでしょう。